真に民主的な労働運動を
不断に追求し、働く者と
家族の幸せ、JR産業の持
続的発展を実現しよう！
http://www.jr-rengo.jp

JRTU
JR連合
JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10
東興ビル9階
TEL（NTT）03-3270-4590（JR）057-7848
FAX（NTT）03-3270-4429（JR）057-7849
1部20円（但し組合費に含む）
●発行者／荻山市朗　●編集者／今井孝治
facebook JR連合
twitter JR連合

10代・20代の青年が加入

ＪＲ北労組・貨物鉄産労

ＪＲ連合加盟のＪＲ北労組苗穂工場支部、貨物鉄産労九州地区本部において、新たな仲間を迎え入れた。いずれも10代、20代の青年であり、まさにＪＲ産業の将来を見据えた英断といえる。ＪＲ連合の真に民主的な労働運動を通じて、ＪＲ産業の持続的な発展を遂げるべく、ＪＲ連合への総結集を果たそう。

ガラス張りの政治の実現を訴え見事当選した長浜候補

５月２日の八十八夜から積み上げた街頭演説1043回が４期目となる当選を後押しした榛葉候補

第25回参議院議員選挙

榛葉・長浜候補ら推薦9名当選

ＪＲ連合は、第25回参議院議員選挙に臨むＪＲ連合国会議員懇談会会長の榛葉賀津也氏（静岡県）、同幹事の長浜博行氏（千葉県）を最重点候補、さらには21世紀の鉄道を考える議員フォーラム所属議員、各産別からの支援要請に基づく候補を重点候補に掲げ、最後の最後まで全員当選に取り組んできた。

厳しい選挙戦の中、各推薦候補者は、堂々と選挙戦を闘い抜き、最重点候補の榛葉氏、長浜氏が見事当選するとともに、比例区においては田村麻美氏（ＵＡゼンセン）、浜野喜史氏（電力総連）、森屋隆氏（私鉄総連）、選挙区においては羽田雄一郎氏（長野県）、大塚耕平氏（愛知県）、森本真治氏（広島県）、野田国義氏（福岡県）がそれぞれ激戦を制した。一方、比例区の石上俊雄氏（電機連合）は健闘するも惜敗した。

ご支援いただいた組合員や家族をはじめとする関係各位に御礼申し上げるとともに、推薦候補の必勝にむけて、まさしく献身的に奮闘されたすべての組合員に対して、心から感謝を申し上げる。

（７月21日に発したＪＲ連合コメントは下記ＱＲコードから）

[開票結果]

〈選挙区〉

	候補者氏名	選挙区	得票数	党派
当選	榛葉賀津也	静岡県	445,866	国民
当選	長浜　博行	千葉県	661,224	立憲
当選	羽田雄一郎	長野県	512,462	国民
当選	大塚　耕平	愛知県	506,817	国民
当選	森本　真治	広島県	329,792	無所属
当選	野田　国義	福岡県	365,634	立憲

〈比例区〉　※党派（　）内数字は今次選挙での得票順位

	候補者氏名	出身産別	得票数	党派
当選	田村　麻美	UAゼンセン	260,324	国民(1)
当選	浜野　喜史	電力総連	256,928	国民(3)
当選	森屋　隆	私鉄総連	104,339	立憲(5)
惜敗	石上　俊雄	電機連合	192,586	国民(4)

ＪＲ７単組で大会終了　ＪＲ連合のさらなる躍進を牽引

JR西労組第31回定期中央本部大会

魅力と求心力あるJR西労組を

ＪＲ西労組は、７月９～11日、松江市内において、「創造・参加・実践　原点に立ち返り、安全の向上と組織の強化を図り、魅力と求心力のあるＪＲ西労組を築こう」をメインスローガンに掲げ、代議員、特別代議員、および傍聴者等の総勢約５００人超の組合員が出席し、第31回定期中央本部大会を開催した。

冒頭、執行部を代表して荻山市朗中央執行委員長が挨拶に立ち、「忘れてはならない運動の原点は、国鉄改革と福知山線列車事故である。それら大きな課題を乗り越えるべく先人先輩がＪＲ西労組運動を推進し、今や組織率は95％に及ぶ。今後も各課題に対して企画提案運動に取り組み、魅力と求心力のあるＪＲ西労組を築こう」と力強く訴えた。

西日本旅客鉄道労働組合
創造・参加・実践
JRTU
JR西労組

上村新体制のもと2万9000組合員が一丸となって運動展開することを意思統一

大会質疑では、本会議・二つの小委員会合わせて１０１人から運動方針を補強する発言があった。

大雨による伯備線運転休止の影響もあり、日程を短縮したスケジュールとなったが、２０１９年度の運動方針を満場一致で決定した。

また、大会に併せて「ＪＲを活かした山陰地域の持続的な進行にむけて」と題したパネルディスカッションを開催した。自治体・地元企業などからパネリストに迎え、観光列車「瑞風」「あめつち」が山陰地域にもたらす波及効果、二次交通へのＩＣカード導入、高速鉄道網の整備、鉄道の強靭化など、ＪＲに対する期待と要望意見が寄せられた。

役員改選では、長年に亘りＪＲ西労組を牽引してきた荻山委員長、里内副委員長、城副委員長らが退任し、新たに上村良成中央執行委員長を中心とする新体制を確立した。

〈三役〉
中央執行委員長　上村　良成　新
中央副執行委員長　松原　伸芳　新
同　本田　雅明　新
同　白壁　靖子　新
書記長　羽野　敦之　新

JR九州労組第28回定期大会

新たな時代を全組合員で切り拓く

ＪＲ九州労組は７月10・11日の両日、佐世保市で第28回定期大会を開催し、２０１９年度運動方針を満場一致で決定した。

中原博徳中央執行委員長は挨拶で、「新たな時代をどのように切り拓いていくのか、確固たる目標を据えながら将来に踏み出していこう」と訴え、主要課題として安全確立、組織強化、労働条件向上、政策課題解決の４点を挙げ、それぞれの課題に対する所信を述べた。

中期労働政策ビジョン「チャレンジ2023」の実現に向け中原委員長のリードで〝団結がんばろう〟

また、大会には、来賓として連合九州ブロック連絡会や連合長崎などの労働団体、九州労働金庫や全国交運共済生協九州事業本部などの友誼団体、ＪＲ連合国会議員懇談会及び21世紀の鉄道を考える議員フォーラム所属の国会議員・秘書らが出席した。ＪＲ連合からは尾形泰二郎事務局長と北村公次労働政策部長が出席した。

議事では、執行部が提案した議案に対して、27人の代議員・特別代議員が発言し、担当執行委員答弁、芦原秀己書記長の集約答弁を経て、すべての議案が満場一致で採決された。また、役員選出では、田頭正憲中央執行副委員長をはじめ４人の役員が退任し、再選された中原委員長をはじめとする新執行体制を確立、ＪＲ九州労組初の女性専従役員も誕生した。

さらには、新たに策定した中期労働政策ビジョン「チャレンジ２０２３」を提起し、同ビジョンで掲げた中期目標の達成にむけて、全組合員が一丸となって取り組むことを確認した。

〈三役〉
中央執行委員長　中原　博徳　再
中央副執行委員長　木村　智隆　再
書記長　芦原　秀己　再

JR北労組第17回定期大会

成果を糧に組織拡大に全力を

ＪＲ北労組は７月27日、札幌市内において「民主化闘争を成し遂げ、安全で働きがいのある職場環境を手に入れ、まともな労使関係を築きあげよう」とのスローガンのもと、第17回定期大会を開催した。

執行部を代表して昆弘美中央執行委員長は、安全の確立、来年度末で支援策の節目を迎えるＪＲ北海道の経営課題と「再生プラン」の実現、組織の拡大と民主化闘争の完遂について見解を述べ、「東日本の組織の動きは必ず北海道にも波及する。私たちの運動で時期を早めるためにも、ＪＲ北労組の真価が問われる正念場の１年になる。職場からの組織拡大に全力をあげよう」と力強く呼び掛けた。

JR北海道労働組合第17回
JR連合
JRTU
北労組

ＪＲ北労組の真価が問われる年と位置付け、政策課題の解決、民主化闘争の完遂を訴える昆委員長

大会にはＪＲ連合から荻山市朗会長が出席し「ＪＲ産業に働くすべての仲間の総結集」を訴えた。また、４月の統一地方選挙で全員当選を果たした６人の地方議員団会議所属の地方議員も参加し、菅原和忠氏、笠木薫氏の２人の北海道道議をはじめ、各議員より政策課題、組織課題の解決に向けて連携して取り組む決意が述べられた。

さらに、今月12日に苗穂工場支部で北鉄労を脱退してＪＲ北労組に加入した10代、20代の青年組合員２人も参加し、全体で加入を歓迎するとともに、さらなる組織拡大への決意を固め合った。

議案の提案に続き７人の代議員が発言し、職場に根ざした熱心かつ本音の議論が交わされた後、新年度の運動方針を満場一致で決定した。

ヤマちゃん
なかのはやみ（NO.300）
センパイ泳ぎましょうよ！
オレ泳ぐの苦手だから…！
なあ～んだセンパイしっかり泳いでるじゃあないですか！
？
エッ
ホラ！水着の女の娘を見ると目がうれしそうに泳いでます！

２０１９年度役員の任務分担決定

新体制を確立し真の民主的労働運動を不断に追求

第28回定期大会終了後、第１回執行委員会を開催し、三役・執行委員の任務分担を決定しました。また、５人の特別執行委員を指定しました。

【2019年度役員任務分担】

役職名	氏　名	任　務　分　担
会　長	荻山　市朗	総括・ＪＲ私傷病共済
副会長	昆　弘美	産業政策委員会副委員長
	菅野　一位	組織・財政検討委員会副委員長
	鎌田　茂	労働政策委員会委員長、組織・財政検討委員会委員長
	上村　良成	産業政策委員会委員長、政治対策委員会委員長
	大谷　清	男女平等参画推進委員会委員長
	中原　博徳	安全対策委員会委員長
	大杉　正美	政治対策委員会副委員長
事務局長	尾形 泰二郎	事務局総括、総務財政部長・福祉対策部長兼務ＪＲ私傷病共済担当、退職者連絡会担当、ＪＲ健保担当
執行委員	今井　孝治	企画部長、広報部長兼務、総務財政担当、男女平等参画推進担当、ボランティア担当
	中山　耕介	組織部長、政治部長・国際部長兼務
	北村　公次	労働政策部長（賃金・業務）、グループ労組担当部長兼務、医療連絡会担当
	中村　鉄平	交通政策部長、安全担当、自動車連絡会担当、青年・女性委員会担当
	政所　大祐	安全対策委員会副委員長
	羽野　敦之	労働政策委員会副委員長
特別執行委員	八木　大星	グループ労組連絡会代表幹事
	白壁　靖子	男女平等参画推進委員会副委員長
	新倉　実	青年・女性委員会議長
	鈴木　大介	青年・女性委員会事務長
	慶島　譲治	交運労協派遣（事務局次長）
会計監査員	鈴木　賢二	（ＪＲ東海ユニオン・中央執行委員）
	本田　雅明	（ＪＲ西労組・中央副執行委員長）

特　集

民主化闘争57

ＪＲ東日本の松田元社長の〝本心〟

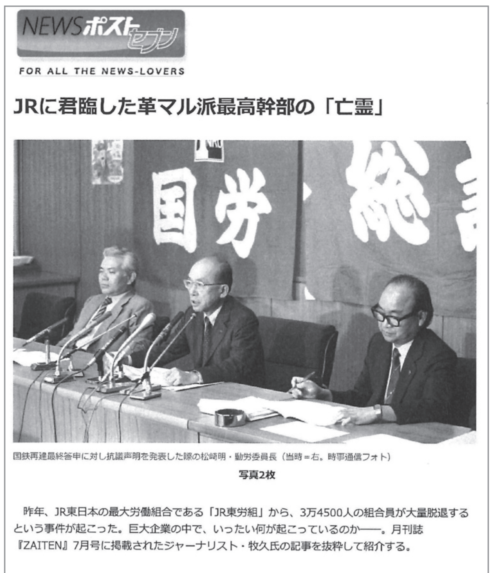
雑誌「ＺＡＩＴＥＮ（７月号）」に掲載された牧久氏へのインタビュー記事の抜粋が、「ＪＲに君臨した革マル派最高幹部の『亡霊』」というタイトルで「ＮＥＷＳポストセブン」のネットサイトで掲載された。

著書「暴君」を上梓するに当って、牧久氏が松田元ＪＲ東日本社長へ取材した内容について、**「松田が私の取材に語ったのは、脅された事実はないということ。その上で松田は、革マル疑惑について松崎に単刀直入に問いただしたところ、松崎は『自分は今でも革マル派である』と認め、『そのことで住田社長や松田さんに一切迷惑はかけない』と誓ったと明かしました。松田は『自らその意思で松崎と一緒の船に乗り込んだ』と明言したのです」**と紹介した。

同様に、雑誌「週刊文春（６月27日号）」に掲載された「暴君」の書評でも、松田元社長の驚くべきこの〝本心〟（「暴君」１４４頁）について紹介されている。

当時のＪＲ東日本は、松崎明氏が極左暴力集団・革マル派であることを認識しながら、協調関係を継続してきた。だからこそ、「労使ニアリー・イコール論」が具現化され、松崎明氏が「ＪＲ東日本の影の社長」と言われるまでの結果を招いてしまったのである。

一方で、様々な媒体で書評が紹介されるほど注目を集めている現在の状況は、ＪＲ東日本に正常な労使関係を求める社会の声でもあるはずだ。



JRに君臨した革マル派最高幹部の「亡霊」

国鉄再建最終答申に対し抗議声明を発表した際の松崎明・動労委員長（当時＝右。時事通信フォト）

写真2枚

昨年、JR東日本の最大労働組合である「JR東労組」から、3万4500人の組合員が大量脱退するという事件が起こった。巨大企業の中で、いったい何が起こっているのか――。月刊誌『ZAITEN』7月号に掲載されたジャーナリスト・牧久氏の記事を抜粋して紹介する。

＊　＊　＊

私は4月に『暴君　新左翼・松崎明に支配されたJR秘史』を上梓しました。2年前の『昭和解体

ネットサイトの記事や新聞の書評で次々に牧久氏と著書「暴君」が取り上げられている
「NEWSポストセブン」Webサイトより（一部編集）

松田元社長が社長に就任した１９９３年に、ＪＲ東日本会社幹部が松崎明氏やＪＲ東労組に対する労政の基本的な姿勢を中堅幹部に伝えたことが「暴君」２２６頁に触れられている。極秘扱いとされた「幹部発言メモ（秘）」には、**「松は生き延びるために会社に協力する姿勢を取っている。共産党や（社会主義）協会派と闘わせるには、革マルを使うより手はないというのが、会社の判断だった。この方針は間違っていなかった」**（註：「松」＝松崎明）とある。

しかし、今年６月21日に開催されたＪＲ東日本第32回定時株主総会で、「暴君」の内容を踏まえた株主から労働組合に対する中立保持義務について問われた際に、答弁に立った喜勢常務取締役は、「ＪＲ東日本ではオープンショップ制をとっている。どこの組合に入るのか、またはどこにも入らないかは、社員の自主判断となっている。会社は一切介入していない。複数組合がある会社として、中立保持義務を堅持している」旨の答弁を行った。

この答弁が本心であるならば、特定の組合に偏った労政を解消するだけではなく、まともな労働組合との労使関係を構築することが求められる。

「中期労働政策ビジョン」を策定した際の論点や、加盟単組の目標設定の重要性を語る尾形事務局長

ＪＲ連合中期労働政策ビジョンを紹介

友好産別の連帯を広げる

～航空連合代表者会議～

７月18日に開催された航空連合代表者会議において、ＪＲ連合尾形泰二郎事務局長が「中期労働政策ビジョン」について約１時間プレゼンテーションを行い、ＪＲ連合が取り組んできた労働政策に関わる活動の一端を紹介した。

航空連合は、航空業界で働く約４万人の仲間で構成されており、ＪＲ連合と同じく連合及び交運労協に加盟し、安全はもとより、航空業界に働く労働者の待遇改善にむけて労働運動に取り組んでいる。

航空連合では、加盟する各単組における賃金をはじめとした諸労働条件の引き上げにむけた取り組みを加速するための新たな運動を構築すべく目下検討を行っている。そこで、ＪＲ連合がこの間積み重ねてきた「中期労働政策ビジョン」の取り組みをその参考事例として学習したいとの航空連合の意向により今回の場が設定された。

登壇した尾形局長からは、ＪＲ連合が今から10年前に「中期労働政策ビジョン」を策定した経緯、そして同ビジョンを２度に亘って改訂した際に考慮した論点等について報告を行った。とりわけＪＲ連合に加盟する単組が１００を数え、所管する業容、業態も多様化する中、各単組が春季生活闘争等において同じ目標を掲げて諸労働条件の向上に努める重要性を伝えるとともに、加盟単組の取り巻く環境に適合した合理的な目標設定の難しさを付言した。

ＪＲ連合は今後も連帯の輪を拡げるべく、課題を共有する産別、組織との連帯を深めていく。

地方議員団紹介【JR西労組】

広島県議会議員

柿本忠則さん

ＪＲ西労組組合員の支えが柿本県議の初当選の原動力につながった

ＪＲ連合の皆さんこんにちは、広島県議会議員（広島市東区選出）の柿本 忠則です。

私の略歴を簡単に紹介しますと、２０００年にＪＲ西日本に入社後、駅務、在来線車掌・運転士、新幹線運転士、総務、人事部門等を経験してきました。一方で労働組合において広島地方本部の青年女性委員長や副委員長（専従）、連合広島の会計監査などを経て、この度の統一地方選挙に挑戦させていただきました。

期間中は、組合の皆さんを中心に非番、休み、就業前にも関わらず街頭に一緒に立ち、ポスティングや電話かけ等本当にたくさんのご支援をいただきましたし、全国の仲間の皆さんから激励の言葉を頂戴いたしましたことに改めて感謝申し上げます。

さて、私が政治の道を歩もうと決意したのは、３つの観点がありました。

一つ目は、20代から地域活動へ参画してきましたが、今後ますます進む少子高齢化、生活スタイルが多様化するなかで安心して出産、子育てができる環境づくり高齢者を孤立させない、災害に備える街づくりのためにも地域ネットワークの充実、地域活性化に多くの課題があると痛感したこと。

二つ目は、鉄道会社での経験を踏まえ、我々の仕事は政治とも精通しており、地域公共交通で山積している課題も政治でなければ改善されないと感じたこと。

三つ目は、労働組合の経験を通じて、労働組合と会社で結ばれた労働条件が政治の世界で環境が激変すれば、結果として私たちの生活は豊かにならないと痛感したこと。

そのためには、自分のように働く者・生活者・納税者の目線に立った政治を推進できる議員が必要ではないかと思ったからです。

鉄道魂を大切にし、新人議員らしく、がむしゃらにそして貪欲に活動して参る所存でございます。

引き続き皆さんのご支援を賜りますことよろしくお願いいたします。

交運共済ニュース
みんなで暮らしをガード
交運共済（JR職域生協）
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合
自然は強い。
共済も強い。

家族の幸せを災害から守る
火災共済/地震風水害共済/交通災害共済/入院共済